

10/635, 056

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-312050

(43)公開日 平成5年(1993)11月22日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
F 0 2 B 63/04		D 8614-3G		
F 0 1 P 5/06	5 1 1	N 9246-3G		
F 0 2 B 77/13		L 8614-3G		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平4-139943

(22)出願日 平成4年(1992)5月1日

(71)出願人 000001052

株式会社クボタ

大阪府大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号

(72)発明者 樋口 郁徳

大阪府堺市石津北町64 株式会社クボタ堺
製造所内

(72)発明者 泉井 良夫

大阪府堺市石津北町64 株式会社クボタ堺
製造所内

(74)代理人 弁理士 北谷 寿一

(54)【発明の名称】 防音型エンジン発電機の換気冷却装置

(57)【要約】

【目的】 エンジンの冷却風と発電機の冷却風とを個別に通風して、冷却性能を向上させる。

【構成】 防音ケース1内で、吸引強制空冷式のエンジン2の後側に内部通風式の発電機3を連動連結して配置する。上記エンジン2を収容したエンジン収容空間20と、上記発電機3を収容した発電機収容空間30とを、仕切り壁11で通風遮断状に仕切る。上記エンジン収容空間20に、エンジン冷却風入口12とエンジン冷却風出口13とを連通させ、エンジン冷却ファン5の送風作用により、冷却風をエンジン本体21のシリンダブロック22とシリンダヘッド23・吸風ケース4及びファンケース6の順に通過させる。前記発電機収容空間30に、発電機冷却風入口14と発電機冷却風出口15とを連通させ、発電機冷却ファン8の送風作用により、冷却風を発電機ケース7の風入口9・発電機部品31及び風出口10に順に通過させる。

